

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371401353		
法人名	有限会社アートプロジェクト		
事業所名	グループホーム名古屋尾崎山の家(1号館)		
所在地	愛知県名古屋市区尾崎山一丁目1101番		
自己評価作成日	令和2年8月12日	評価結果市町村受理日	令和2年11月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/237/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyosyoCd=2371401353-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市区瑞穂区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和2年8月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様、職員が常に明るく笑顔の絶えない家庭的な雰囲気のもと寄り添いあいながら安心して過ごして頂けるよう努めている。事業所として接遇や高齢者虐待防止について特に力を入れており、不適切な声掛けやケアを放置する事によってエスカレートし、発生しうる虐待を未然に防ぐ事を毎月の会議や定期的な社内研修で周知、徹底している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ対策の一環として3月の運営推進会議から書面開催としていますが、「主な議題」についてメンバーからの意見を収受したうえで「参加者からの意見・要望等に対する事業所としての対応」「次回に向けて事業所として検討すべき課題」欄で期待に応え、また「行政に対して伝達すべき事項」欄で密な報告につなげていて、日頃の取組みの精度の高さが凝縮しているように受けとめられ、感嘆に尽きます。またコロナ禍で外出や面会に制限のあるなかでも利用者に飲んでもらおうと、桜を窓越しに眺めてお花見弁当(卵焼き、煮物、サラダ、炊き込みご飯など豪華)を堪能したり、模擬喫茶を所内で開店して利用者に変な歓迎されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが ○ 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼等で理念を確認し、それを基に職員は介護サービスを提供するよう努めている。	事業所の理念はありませんが、「スピーチロックをゼロにしよう」との目標を掲げています。法人の理念は朝礼で唱和するとともに、管理者が「利用者の笑声が聞こえるような生活がある」ことを目指して職員にもその想いを常々伝えていきます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防対策により、これまで行っていた地域のイベントやボランティア様等による地域との交流の機会が減っているが、外気浴時に地域の方に挨拶をしたりと限定的ではあるが、交流をするようしている。	当初は利用者と一緒に回覧板を隣に届け、社会参画を図っていましたが、現在は届け先が職員の自宅となり行かなくなっています。また、これまでであった3つのボランティアチームの来訪や、小学校行事のお招きはすべて中止となり、外気浴を通じた挨拶程度の交流に留まっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨今の状況を踏まえ見学の希望あれば玄関先や事務所で短時間であるが事業所のご案内をさせて頂き、その後電話等で詳しくご説明をさせて頂くことにより地域の困っている方等の支援をさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、今までの地域の方や、ご利用者ご家族様を招いての参加が困難で意見の集約は難しいが、同法人の他事業所での共同開催を行っておりその中で意見交換、情報収集を行いサービス向上に努めている。	コロナ禍の影響ではなく、昨年来から運営推進会議が隔月開催できておらず(年6回開催は順守している)、6月・7月・8月で連続開催となっています。6月は「エスケープ」、8月は「脱水と食事の話」について薬剤師、管理栄養士から講話を得るなど、学びの場として昇華しています。	隔月に実施できない理由の一つがいくつかの事業所との合同開催にないか等、できない原因を洗い出して、是正していくことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃よりいきいき支援センター、生活保護担当者や区役所の介護福祉課の方と連絡を密にとっており困難事例相談等を受けるなど信頼関係構築に努めている。	生活保護受給者を6名受け入れており、普段から介護福祉課の担当職員とは密に連絡を取っています。保護が必要な人を上限なく受け入れていることから、困難事例やその類のことは随時入っていて、「まるで駆け込み寺のよう」です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアル、身体的拘束等の適正化のための指針を整備し定期的なネット配信や紙面による研修や3か月に1度開催する身体的拘束適正化委員会を通し身体拘束をしないケアに努めている。防犯上玄関の施錠は行っているが、外出を希望される方には時間帯等による可能な限り職員が付き添うようにしている。	身体拘束廃止未実施減算に係る事柄は適切にすべて完遂しています。「待ってて」といったスピーチロックがうっかりでしてしまう職員もいますが、職員同士で注意しあえる関係があり、また夜間のおむつ交換の頻度についても留意しており、体制を整えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアル整備は勿論の事、朝礼や1ヶ月に1度の職員会議では必ず虐待防止について議題に挙げ話し合う事で虐待防止に努めている。また、法人内においても虐待根絶サービス向上委員会の設置など虐待防止に力を入れている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用している利用者様があり、職員全体で制度について把握をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、重要事項等説明しご理解を頂き契約を行っており、制度改正時にも十分な説明を行い再契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご家族様には利用者様の状況等を報告しており、ケアプラン作成時にはご意見やご要望をお聞きし可能な限りケアや運営に取り入れるよう努めている。	コロナ禍となってからの面会は、事務所の中と外で双方椅子に座って窓越しで話をしたり、玄関前のベンチで外気浴をしつつ等、なるべく顔が見えるよう配慮しています。従来通り、居室担当者が1ヶ月の様子を手紙にしたためて郵送するとともに、電話でのやりとりを増やしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議では地域運営アドバイザーが出席し、職員から意見や提案、質問など聞く機会を月に1度は設けており、法人内においても本部への直通ダイヤルを設置している。	職員会議が月1回開催され、その場で意見を管理者が耳を傾け、できる限り期待に応えるよう工夫しています。職員からは、運営や自身の処遇のことよりも現場改善や利用者の支援に係る提案が多く上がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、地域運営アドバイザー及び補佐を通し管理者や各職員の実態を把握し働き甲斐のある環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員が毎月の社内研修や2か月に1度の管理者会議などを通じ、技術や知識向上を図れるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内研修や外部研修などを通じ、社内や外部関係者と交流を図りサービスの質の向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントに基づき、ご本人様が困っている事や不安の原因を追究し安心して生活されるよう努めている。要望に関してはご自分で表現ができない場合、普段からの関わりを通じて汲み取るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にはご家族様は勿論、ご本人様にもできるだけ来設いただき、事業所の説明など一方的になる事がないように困っている事や不安な事などをお聞きし安心して生活できるよう努めている。要望に関しては施設として対応できる事はケアに取り組むよう信頼関係構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様やご本人様には十分に事業所の説明をさせて頂いたうえで、困っている事や要望などをお聞きし事業所で対応可能なことや対応が困難な事をお伝えし、その方にとって最適な他サービスを提案させて頂くといった対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすことを基本とし、職員と共に可能な範囲で食事の支度や洗濯ものたたみ等をして頂き、ご本人様の生活の質が向上するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度ご家族様に来設して頂いた際にドアガラス越しにはなるが面会して頂く他に、手紙や電話等でも近況報告を行うことでご家族様と情報を共有し共にご本人様を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から知人や友人がいる方が少なく来所も減多にないが、ご本人様やご家族様から情報を頂き、今後のケアに繋がるよう努めている。	名古屋の喫茶文化を踏襲して、10時の水分補給は珈琲タイムとしています。事業所内では、洗濯物をたたむ等家事のほかは従来の取組みの継続はみられませんが、コロナ禍前には「母の日」「父の日」や「誕生日」には家族が外食に連れ出してくださっていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で利用者様同士の関係が良くなるように職員は常に細かい配慮をし支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了となってもご本人様やご家族様の不安がないように各関係機関と連携を図り支援や援助を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケース会議の際、利用者様、御家族様の意向や生活歴など様々な情報から潜在している要望を検討している。	利用者との会話では職員がアプローチすることで要望が引き出せることが間々あり、「そろそろ〇〇さんが好きなホタルイカの時期ですね」との投げかけから「食べたい」「では！」と管理者が購入に走り、その日の食卓に並び、「おいしい」と喜ばれたとの例もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様の今までの生活歴や暮らし方、ご家族様からの情報を基に把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の生活や心身の状態を把握して、できる事、出来ない事を今ある能力を日々記録し職員は情報共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画を作成し利用者様のアセスメントを基にご家族様と話し合い作成している。	計画作成担当者となれる人は4名、介護支援専門員の認定者も3名と、本件における専門家を多数擁しています。介護記録で毎日短期目標ができていくかモニタリングがおこなわれ、カンファレンスで意見を出し合うことで「チームでつくる」につなげています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、介護詳細記録、申し送りノート等に毎日記録し全職員が把握できるよう努め、ケアプラン見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	担当者会議や普段の生活の中から要望をお聞きし把握する事はもちろん、突発的な要望等に関しては対応可能なものについてはすぐに対応できるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響で、外出や外食、ボランティア様来設の制限をさせて頂いているが、季節のフルーツを召し上がったり梅ジュースを職員と一緒に作ったり他にも好きな事、得意な事をして頂いて過ごせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による隔週の往診や職員での協力医への通院介助などを行っている。また、受診等の判断に迷うケースについても電話等で相談している。他科受診の必要があれば紹介状をいただき、速やかに受診できる体制を築いている。	協力医に18名全員が変更しています。月2回の訪問診療では事業所勤務の看護師が立ち合い、看護記録に詳細を残して情報共有できるようにしています。また、看護師は24時間オンコール体制にあり、近くに住んでいることから、対応が速やかです。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者様との関わりを通じ日常の変化など気付いたことを看護師に報告し適切な受診や看護を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には速やかに担当医や関係者に情報提供を行い、治療計画の把握や今後の相談を行っている。また、退院時には病院のカンファレンスにできるだけ参加したりサマリーを基に支援方法を考えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期対応は行っていないが、重度化した場合には各関係機関と連携し対応できる体制づくりに努めている。	現在の協力医は看取りの支援はおこなわないため、事業所としては「できない」として、契約の段階で家族に説明のうえ、合意に至っています。重度化が進行していると判断した折に、改めて家族と移設に向けた話し合いをもっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	安全管理対策マニュアル、介護事故マニュアルなど各種マニュアルの整備定期的な社内研修を通し、全職員が急変や事故発生時などに対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	風水害対策マニュアル、地震対策マニュアルなど各種マニュアルの整備、年2回の消防訓練を通し、全職員は災害時の対応方法の把握をしている。	コロナ禍であっても例年通り法定訓練は職員と利用者で協力し合って実施しています(6月)。日中の火災を想定して、初期消火(水消火器を借りて職員が消火)、通報、経路確認、誘導方法などのメニューに取り組みました。次回は、消防署の立ち合いで夜間訓練をする予定です。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各種マニュアル整備や、定期的な社内研修は勿論、月に一度の職員会議では接遇目標を掲げ、職員一人一人反省点や改善点など話し合い改善するようにしている。	この1年頑張った事は、「接遇(挨拶、言葉遣い、聴く姿勢など)と虐待防止」というだけあって、「目を合わせ、にこやかに、ゆっくりはっきりと声掛けする」といった接遇目標を掲げ、職員会議で振り返る時間も設けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話から職員に希望や要望等を伝えて頂けるよう声かけをしている。ご自分で伝えられない方には普段からの表情や様子から希望や要望を汲み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを職員は把握し、作品作りやゲーム、編み物などやりたいことをできるよう職員は支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度訪問理美容を利用し、希望の髪型にカットして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に好き嫌いをお聞きしている他、定期的に嗜好調査を実施、メニューを決める際に食べたいものをお聞きしメニューに組み込み提供している。また、料理の下準備や食器拭きなど職員とともに行っている。	職員がスーパーマーケットで品定めをし、メニューも決めています。利用者も包丁で野菜を切ったり、味見などの手伝いに加わる日常のほか、7月の七夕会では家族から届いた果実をメインに大好きな餡子をのせてフルーツあんみつを作るなど、イベント食にも力を注いでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えメニューを作成している。水分の少ない利用者様にはコーヒー、牛乳、ジュース等好みのものに替え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、義歯の洗浄の見守りまたは介助。協力歯科による定期健診を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は利用者様一人一人の排泄パターンを把握し、定期的に声かけを行い、失敗が無いように自立に向け支援している。	排泄チェック表を用い、一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的な声かけで失敗を防ぐとともに「トイレをつかう」自立を目指しています。現在、声をかけなくても自らトイレに向かう人は5名、他はなにがしかの支援を必要としています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分摂取量に注意し、朝の体操やフロア一周回を行うなどできるだけ薬に頼らないように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日、時間は設定させて頂いているが、いつでも入浴して頂けるよう対応を行っている。また、日常的に強い要望があれば個別サービスにて対応させて頂く。	入浴は2日に1度、週3日ほどを目安としていて、浴槽がまたげなくなった場合はシャワー浴となります。1日9名が入るため午後の半分の時間を要しており、冬場はもう少し長くなります。今はいませんが、毎日入りたい希望には介護計画に組入れ、確実に実施できるよう配しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転などにならないよう、職員は配慮しながら日中に希望があればいつでも休息して頂けるようにしている。また、天気の良い日には布団など寝具を干し夜間気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬について職員は全て把握している。変更があるときなど協力医や薬剤師などと連絡をとり相談するようし、服薬後もご本人の状態の変化などよく観察するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下準備、箸、お盆並べ、食器、お盆拭き、洗濯物たたみなど一人一人役割をもって頂くよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止対策により、外出など制限させて頂いているが、天気の良い日はポーチのベンチなどで外気浴をして頂いたり、このような状況でストレスを感じないな支援に努めている。	喫茶店へ気軽に行けていた日は遠のき、今のところ散歩が中心の外出支援です。それでも、目の前の公園の桜を窓越しに見て、お花見弁当(卵焼き、煮物、サラダ、炊き込みご飯など豪華)で気分だけでも味わったり、模擬喫茶を所内で開店して、利用者に変え飲ばれています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失や防犯上、施設にて金銭管理させて頂いているが要望があれば職員と買い物をしたり、ご家族様の協力を頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族様から郵便にて差し入れが届いた際、ご本人様と電話でお礼をして頂くように支援しており、希望があればご家族様と電話をして頂けるような環境となっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただく、貼り絵、折り紙などを飾り付けをしている。また、浴室やトイレにはわかりやすいように表示をするなど配慮をしている。	床の清掃は、夜勤者がこびり付きをヘラで取り、水モップをしており、コロナ禍後も掃除方法は変わっていません。朝と昼は居室とリビング換気、夜はリビングのみおこなっています。また、エアコンのフィルターは月1回掃除することを定めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様がリビングにてテレビを見たり、会話をされたり自由に過ごして頂けるよう配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が作られた貼り絵や塗り絵、ご家族様の写真などを居室に配置し、思い思いに過ごして頂けるよう工夫している。	珍しいものを持ち込んでいる人はなく、ぬいぐるみや家族写真が中心ですが、携帯電話を持つ人は2名います。転倒防止の為、糞の上にベットマットとふとんを敷く人や、和室の生活に親しんだ本人の希望によりベットをとりはらって布団で寝起きする人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用スペースはもちろん、居室内の家具の配置を随時見直すなど安全、安心に過ごして頂けるように配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371401353	
法人名	有限会社アートプロジェクト	
事業所名	グループホーム名古屋尾崎山の家(2号館)	
所在地	愛知県名古屋市長区尾崎山一丁目1101番	
自己評価作成日	令和2年8月12日	評価結果市町村受理日 令和2年11月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/237/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyosyoCd=2371401353-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室	
所在地	愛知県名古屋市瑞穂区本願寺町2丁目74番地	
訪問調査日	令和2年8月27日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様、職員が常に明るく笑顔の絶えない家庭的な雰囲気のもと寄り添いあいながら安心して過ごして頂けるよう努めている。事業所として接遇や高齢者虐待防止について特に力を入れており、不適切な声掛けやケアを放置する事によってエスカレートし、発生しうる虐待を未然に防ぐ事を毎月の会議や定期的な社内研修で周知、徹底している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ対策の一環として3月の運営推進会議から書面開催としていますが、「主な議題」についてメンバーからの意見を収受したうえで「参加者からの意見・要望等に対する事業所としての対応」「次回に向けて事業所として検討すべき課題」欄で期待に応え、また「行政に対して伝達すべき事項」欄で密な報告につなげていて、日頃の取組みの精度の高さが凝縮しているように受けとめられ、感嘆に尽きます。またコロナ禍で外出や面会に制限のあるなかでも利用者に飲んでもらおうと、桜を窓越しに眺めてお花見弁当(卵焼き、煮物、サラダ、炊き込みご飯など豪華)を堪能したり、模擬喫茶を所内で開店して利用者に変な歓迎されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼等で理念を確認し、それを基に職員は介護サービスを提供するよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防対策により、これまで行っていた地域のイベントやボランティア様等による地域との交流の機会が減っているが、外気浴時に地域の方に挨拶をしたりと限定的ではあるが、交流をするようしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨今の状況を踏まえ見学の希望あれば玄関先や事務所で短時間であるが事業所のご案内をさせて頂き、その後電話等で詳しくご説明をさせて頂くことにより地域の困っている方等の支援をさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、今までの地域の方や、ご利用者ご家族様を招いての参加が困難で意見の集約は難しいが、同法人の他事業所での共同開催を行っておりその中で意見交換、情報収集を行いサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃よりいきいき支援センター、生活保護担当者や区役所の介護福祉課の方と連絡を密にとっており困難事例相談等を受けるなど信頼関係構築に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアル、身体的拘束等の適正化のための指針を整備し定期的なネット配信や紙面による研修や3か月に1度開催する身体的拘束適正化委員会を通し身体拘束をしないケアに努めている。防犯上玄関の施錠は行っているが、外出を希望される方には時間帯等によるが可能な限り職員が付き添うようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアル整備は勿論の事、朝礼や1ヶ月に1度の職員会議では必ず虐待防止について議題に挙げ話し合う事で虐待防止に努めている。また、法人内においても虐待根絶サービス向上委員会の設置など虐待防止に力を入れている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用している利用者様があり、職員全体で制度について把握している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、重要事項等説明しご理解を頂き契約を行っており、制度改正時にも十分な説明を行い再契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご家族様には利用者様の状況等を報告しており、ケアプラン作成時にはご意見やご要望をお聞きし可能な限りケアや運営に取り入れるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議では地域運営アドバイザーが出席し、職員から意見や提案、質問など聞く機会を月に1度は設けており、法人内においても本部への直通ダイヤルを設置している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、地域運営アドバイザー及び補佐を通し管理者や各職員の実態を把握し働き甲斐のある環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員が毎月の社内研修や2か月に1度の管理者会議などを通じ、技術や知識向上が図れるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内研修や外部研修などを通じ、社内や外部関係者と交流を図りサービスの質の向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントに基づき、ご本人様が困っている事や不安の原因を追究し安心して生活されるよう努めている。要望に関してはご自分で表現ができない場合、普段からの関わりを通じて汲み取るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にはご家族様は勿論、ご本人様にもできるだけ来設いただき、事業所の説明など一方的になる事がないように困っている事や不安な事などをお聞きし安心して生活できるよう努めている。要望に関しては施設として対応できる事はケアに取り組むよう信頼関係構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様やご本人様には十分に事業所の説明をさせて頂いたうえで、困っている事や要望などをお聞きし事業所で対応可能なことや対応が困難な事をお伝えし、その方にとって最適な他サービスを提案させて頂くといった対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすことを基本とし、職員と共に可能な範囲で食事の支度や洗濯ものたたみ等をして頂き、ご本人様の生活の質が向上するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度ご家族様に来設して頂いた際にドアガラス越しにはなるが面会して頂く他に、手紙や電話等でも近況報告を行うことでご家族様と情報を共有し共にご本人様を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から知人や友人がいる方が少なく来所も減多にないが、ご本人様やご家族様から情報を頂き、今後のケアに繋がるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で利用者様同士の関係が良くなるように職員は常に細かい配慮をし支援している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了となってもご本人様やご家族様の不安がないように各関係機関と連携を図り支援や援助を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケース会議の際、利用者様、御家族様の意向や生活歴など様々な情報から潜在している要望を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様の今までの生活歴や暮らし方、ご家族様からの情報を基に把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の生活や心身の状態を把握して、できる事、出来ない事を今ある能力を日々記録し職員は情報共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画を作成し利用者様のアセスメントを基にご家族様と話し合い作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、介護詳細記録、申し送りノート等に毎日記録し全職員が把握できるよう努め、ケアプラン見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	担当者会議や普段の生活の中から要望をお聞きし把握する事はもちろん、突発的な要望等に関しては対応可能なものについてはすぐに対応できるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響で、外出や外食、ボランティア様来設の制限をさせて頂いているが、季節のフルーツを召し上がったり梅ジュースを職員と一緒に作ったりと他にも好きな事、得意な事をして頂いて過ごせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による隔週の往診や職員での協力医への通院介助などを行っている。また、受診等の判断に迷うケースについても電話等で相談している。他科受診の必要があれば紹介状をいただき、速やかに受診できる体制を築いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者様との関わりを通じ日常の変化など気付いたことを看護師に報告し適切な受診や看護を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には速やかに担当医や関係者に情報提供を行い、治療計画の把握や今後の相談を行っている。また、退院時には病院のカンファレンスにできるだけ参加したりサマリーを基に支援方法を考えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期対応は行っていないが、重度化した場合には各関係機関と連携し対応できる体制づくりに努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	安全管理対策マニュアル、介護事故マニュアルなど各種マニュアルの整備定期的な社内研修を通し、全職員が急変や事故発生時などに対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	風水害対策マニュアル、地震対策マニュアルなど各種マニュアルの整備、年2回の消防訓練を通し、全職員は災害時の対応方法の把握をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各種マニュアル整備や、定期的な社内研修は勿論、月に一度の職員会議では接遇目標を掲げ、職員一人一人反省点や改善点など話し合い改善するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話から職員に希望や要望等を伝えて頂けるよう声かけをしている。ご自分で伝えられない方には普段からの表情や様子から希望や要望を汲み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを職員は把握し、作品作りやゲーム、編み物などやりたいことをできるよう職員は支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度訪問理美容を利用し、希望の髪型にカットして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に好き嫌いをお聞きしている他、定期的に嗜好調査を実施、メニューを決める際に食べたいものをお聞きしメニューに組み込み提供している。また、料理の下準備や食器拭きなど職員とともに行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えメニューを作成している。水分の少ない利用者様にはコーヒー、牛乳、ジュース等好みのものに替え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、義歯の洗浄の見守りまたは介助。協力歯科による定期健診を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は利用者様一人一人の排泄パターンを把握し、定期的に声かけを行い、失敗が無いように自立に向け支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分摂取量に注意し、朝の体操やフロア一周回を行うなどできるだけ薬に頼らないように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日、時間は設定させて頂いているが、いつでも入浴して頂けるよう対応を行っている。また、日常的に強い要望があれば個別サービスにて対応させて頂く。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転などにならないよう、職員は配慮しながら日中に希望があればいつでも休息して頂けるようにしている。また、天気の良い日には布団など寝具を干し夜間気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬について職員は全て把握している。変更があるときなど協力医や薬剤師などと連絡をとり相談するようにし、服薬後もご本人の状態の変化などよく観察するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下準備、箸、お盆並べ、食器、お盆拭き、洗濯物たたみなど一人一人役割をもって頂くよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止対策により、外出など制限させて頂いているが、天気の良い日はポーチのベンチなどで外気浴をして頂いたり、このような状況でストレスを感じない支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失や防犯上、施設にて金銭管理させて頂いているが要望があれば職員と買い物をしたり、ご家族様の協力を頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族様から郵便にて差し入れが届いた際、ご本人様と電話でお礼をして頂くように支援しており、希望があればご家族様と電話をして頂けるような環境となっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただく、貼り絵、折り紙などを飾り付けをしている。また、浴室やトイレにはわかりやすいように表示をするなど配慮をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様がリビングにてテレビを見たり、会話をされたり自由に過ごして頂けるよう配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が作られた貼り絵や塗り絵、ご家族様の写真などを居室に配置し、思い思いに過ごして頂けるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用スペースはもちろん、居室内の家具の配置を随時見直すなど安全、安心に過ごして頂けるように配慮している。		